

南の島の楽園生活マガジン

エムック1695

沖縄スタイル

[magazine]

OkinawaStyle30

<http://www.okinawa-style.jp>



AWAMORI



BINGATA



SANSHIN



SHISA

創刊
5周年
特別企画



HIBISCUS

美しき沖縄の魅力、再発見。

DISCOVER

Okinawa

[ディスカバー・オキナワ]



SUIGYUSHA



ROOTBEER



OKINAWA SOBA



EISA



BEACH



KARIYUSHI WEAR



TROPICAL FISH



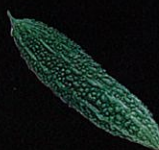
RYUKYU GLASS



YACHIMUN



RYUKYU HARIKO



GOYA



SHIMA ZORI



SPAM

久高島
神の島のアガリカタ

東方

琉球一早く朝日が昇る うふあがり島。

北大東島

沖繩本島
久高島

北大東島

約360km



沖縄では、幸せは東の方向からやってくると考えられています。沖縄本島南部の東側、多くの聖地を有する南城市の久高島は、神が住む島として人々から崇められていますが、今回紹介するうふあがり島は、その遥か東に浮かぶ断崖絶壁の孤島。沖縄一、早く朝日が昇る島です。

写真=仲程長治 Photos:Choji Nakahodo <http://www.ryukyurise.com>
文=権聖美 Text:Kiyomi Gon <http://sungmi.ti-da.net>

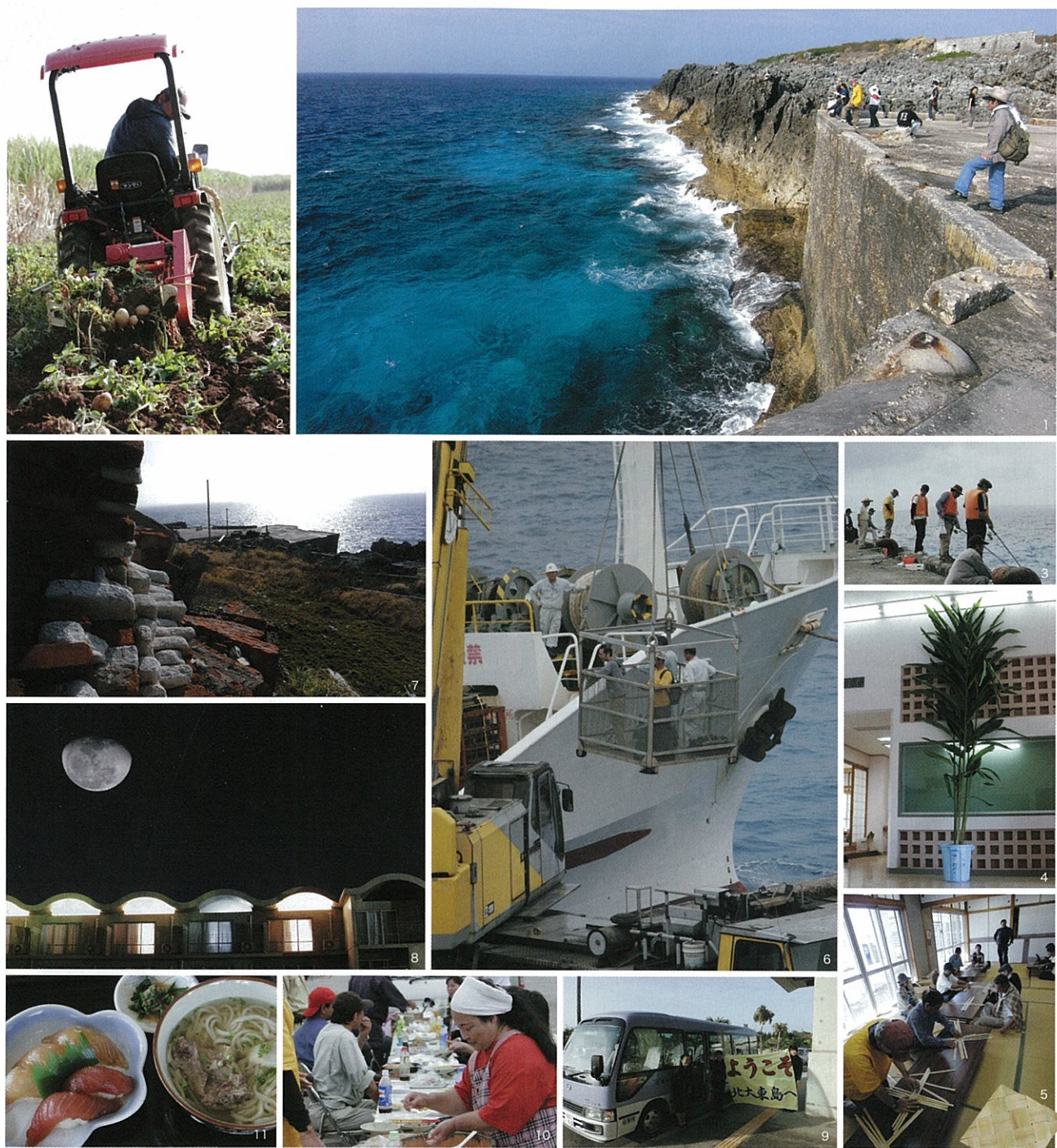


環礁が隆起してできた島。外周は約13キロの小さな島だが、絶滅危惧種や希少種植物が多く自生している

うふ(大あがり(東)とは、北大東・南大東・沖大東の三つの島からなる大東諸島を指すが、主に最も東の北大東島の呼称。北大東島を紹介する時、よく使われるキーワードは、大東そば・大東寿司、大きな台風が通過する、基幹産業がサトウキビ。けれど、北大東島には他にもたくさん魅力があつて、それは人々の暮らしの中に輝いている。そこで、北大東島での体験を通して、島の暮らしを感じてもらおうと、2泊3日のモニターツアー(コンサルティング「カルティベート」<http://www.cultivate-inc.jp>)が開催された。

島をナビゲートしてくれたのは北大東村役場の職員さん。空港からバスで島を一周しながら、丁寧に村を紹介してくれた。

翌早朝は、朝日を見るため最東端の碑へ。太陽が海にボカッと上がった瞬間、神々しいまでの美しさに言葉も忘れて「バシヤッ」。この朝日を見るだけでも島を訪れる価値はある。



1:高さ12mの西港。かつては荷の上げ下ろしが行われていた 2:北大東島のじゃがいもは低農薬。「そのへん転がっているいもは持って帰っていいよ」 3:釣りを楽しむ参加者 4:5mにまで成長する大輪月桃 5:コースター作り。月桃の茎をむき乾かしたものを編む 6:クレーンで吊り上げられるようす 7:戦前まで盛んだった燐鉱石貯蔵庫跡地。現在の人口は約550名だが、当時は2000人もいたとか 8:宿泊したハマユウ荘に浮かぶ月が幻想的 9:役場のスタッフがお出迎え 10:島のお母さんが握る大東寿司は絶品! 11:昼食は大東寿司とじゃがいも麺のそば。うまい!

その後は、島を観光しながら、さまざまなプログラムを体験。例えば、サトウキビを縛るために用いる植物、大輪月桃の株分け・植え付けや、月桃の吸水性・抗菌作用を利用したコースターを手作りしたり、島の人々が日常的に行っているピーチクリンに参加したり。ちょうど収穫期だったので、じゃがいも畑も見学。たくさんのお土産もいただいた。

最終日の釣りは、島の方達の計らいで豪華なピーチパーティに早変わり。刺身で、天ぷらで、酢味噌和えて、釣った魚をその場で堪能できた。島のお母さんは大東寿司の作り方講習会まで開いてくれた。

今後は体験ツアーとして本格的に商品化する予定だとか。見るもの食べるもの出合うもの、すべてが大満足の内容だったけど、一番の魅力はこの島の人達だ。ツアーを終えた後は、とても温かい気持ちに包まれた。今度はぜひプライベートで訪れてみたい。観光ガイドは現在でも対応可能。北大東村役場経済課(☎0980-234033)にお問い合わせを。次回の旅は北大東島へ!